

大聖院：戒壇めぐり

大聖院の観音堂を訪れる人の多くは、堂正面の縁側の細くて目立つ階段がどこにつながっているのだろうと不思議に思います。これは建物の地下通路である戒壇めぐりの入口で、一般に公開されています。暗闇にある通路は観音の体内を象徴しています。それを通り抜けることは、思いを清め、霊を向上させると言われています。通路の左手の壁の絵は、中国地方（宮島が属する）で観音を祀っている 37 の神社の神を表しています。それぞれの絵の前にあるじゅうたんの下には、描かれた神が祀られている神社の砂が入った袋があります。この砂は、神社の聖域を表しています。37 の絵それぞれの前で祈ることで、1,500 キロにおよぶ中国地方の観音巡りを完遂する旅行者と同じ御利益に与ることができると言われています。この便利な手は元々、何週間も荒れ地を走破するようなきつい運動を背負い込めない貴族階級の成員のために考案されたものです。